

# 絆

K I Z U N A

2020 NOVEMBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [887号]

11





青森空港

発着

旅行期間

2021年1月29日(金)~2月1日(月)



お得に安心の国内旅行を楽しんで、日本を元気に!

GoToトラベル事業支援対象 旅行代金の割引+地域共通クーポン券



日本トランスオーシャン航空チャーター機で行く!

沖縄

# 石垣島・宮古島

鳩間島・西表島・由布島・池間島・来間島

## 4日間

■お支払い実額(おひとり様)

# 158,000円

GoToトラベルキャンペーンで、旅行代金200,000円から、なんと42,000円が支援されます! さらに、別途18,000円の地域共通クーポンが付与されます!

楽園の入り口。  
優しい時が降る島々。

安心・安全  
乗り継ぎなし!  
チャーター直行便!!  
ラクラク充実の旅

新型コロナウイルス  
感染予防対策を徹底し  
安心・安全な旅行をご用意します!

Nツアー

参加者全員に「マスク・携帯消毒液」を配布  
トラベルイヤホンで、観光地の3密を回避  
ツアー参加前の健康チェックシート、検温の実施  
添乗員は検温・体調管理を行い、常時マスク着用

航空機

空港内、機内のアルコール消毒を徹底  
機内は、空気循環(換気)で常に新鮮な空気

貸切バス

乗車人数を限定し、ゆとりを持った座席確保  
車内換気システムを装備した貸切バスを利用  
乗務員の検温・体調管理と、車内消毒の徹底

※詳しくは裏表紙をご覧ください



石垣島・川平湾(イメージ)

西表島~由布島/水牛車(イメージ)



八重山諸島巡り チャータークルーズ船(イメージ)



シギラセブンマイルスリッド(イメージ)



鳩間島(イメージ)

池間大橋(イメージ)



株式会社農協観光



憩うよ、沖縄。

## GOTOトラベルキャンペーンの活用について

この半年あまりで、新型コロナウイルスは瞬く間に地球上に蔓延しました。いま、今後の長期化も含めて、旅行業界を含む観光産業全体が、いまだかつて経験したことのない苦境に立たされています。

このようななか、JAグループ青森の皆様には、「Nツアー旅行券」の購入をはじめ、JA旅行事業の継続に向けて、多大なるご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

JA旅行事業は、JAくらしの活動と連携し、旅を通じた「交流・絆づくり」を促進し、地域のつながりづくりに貢献する事業です。

そして、旅は心や体をリフレッシュしてくれるだけではなく、私たちの視野を広げ、新しい発見や感動をもたらしてくれる貴重な体験です。

旅に出たい。誰もが抱くこの気持ちに寄り添い、旅行者の不安を少しでも軽くできるよう、いま私たちは、旅先での感染防止策に取り組んでいます。

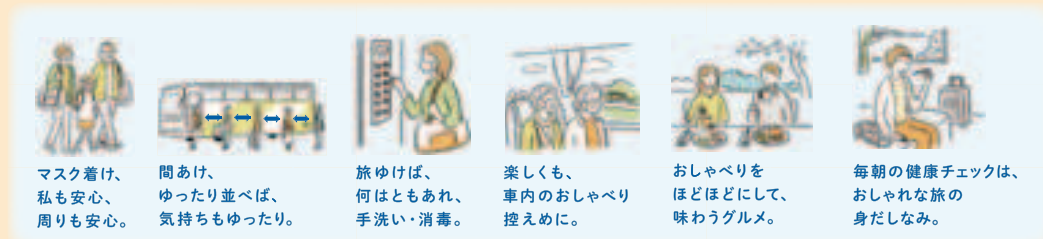
現在、旅行需要を喚起するため、日本政府による経済対策「GOTOトラベルキャンペーン」が実施されております。GOTOトラベル事業は、旅行者・事業者の感染予防対策を中心に国民の健康や安全を第一とし、停滞している日本経済の再始動を図るために立ち上げられた事業です。実施概要をご案内させていただきますので、是非ともご活用いただきますとともに、詳細につきましては、お気軽にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

### 【GOTOトラベルキャンペーンの実施概要／対象期間＝1月31日まで（予定）】

GOTOトラベル事業は、ウィズコロナ時代における「新しい生活様式」に基づく旅のあり方を普及、定着させるものです。旅行中には、「新しい旅のエチケット」を実施してください。

- ①旅行代金の1/2相当額を支援
- ②1人1泊2万円、日帰りなら1万円上限
- ③支援額の内、70%は旅行代金の割引に、30%は旅行先で使える地域共通クーポンとして付与
- ④連泊や利用回数の制限なし

### 【新しい旅のエチケット（国土交通省・観光庁）】



株式会社農協観光 青森支店

## 絆 11 目次 CONTENTS

メッセージ	1	組織農政通信	16
フラッシュ	2	経営の窓口	18
インフォメーション	4	県JA女性協NEWS	19
東北農政局通信あおもり	11	輝き	20
実践農業者支援	12	自慢の逸品	20
実践自己改革	14	みりよく発信	21

# フラッシュ



JA青森

## 秋まつり開催 (10/24)

あおもり海道そばブランド推進協議会は、JA青森羽白野菜出荷施設内で「秋まつり」を開催し、来場した約500人に東青地域のブランドソバ「あおもり海道そば(茹で麺・2食入り)」を無料でプレゼントした他、農産物や加工品などの買い物を楽しむ人で賑わいをみせた。今年は新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれたが飲食スペースも廃止し、ソバは持ち帰りのみにしたことに伴って名称を「秋まつり」に変更し、開催を実現した。



JAごしょつがる

## 晩生種りんご規格基準説明会 (10/22~23)

JA管内14か所で晩生種の規格基準説明会を開催した。職員は「今年りんごの集荷が順調。晩生種もかなりの着果量が見込まれる」と話し、選果の際は被害果の取り扱いに注意するよう呼び掛けた。



JA相馬村

## りんごが愛おしくなりました (10/1)

10月1日から5日間JA相馬村管内に日本航空の社員5名がりんご作業応援として訪れた。この取組は農家の人手不足で、農作物の収穫等に支障が出ているとのニュースを目にしたJALのパイロット有志らが、農業応援活動を提案したもの。

機長の西田哲郎さん(51)は、「大変な作業を経て育ていく果物だと身をもって初めて知ることが出来た。自分で作業を行ったりんごが今後どのようにして赤くなっていくのかすごく気なる。育てているりんご全部が愛おしいです」と笑顔で話した。



JAつがるにしきた

## 山選果徹底 呼びかけ (10/23)

JAつがるにしきたは、管内7ヶ所で晩生種りんご「ふじ」「王林」を含む7品種の山選果基準説明会を開き、水元りんごセンターで行われた説明会には、生産者約40人が参加し、入庫区分や山選果基準を確認した。

JAの担当者は「6月下旬から7月中旬の降水量が平年よりも多かったことから輪紋病の発生が目立っている。小斑点でも貯蔵、販売期間中に腐敗する可能性があるるので混入しないように」と注意を呼び掛けた。



JAつがる弘前

## インターネットでりんご収穫中継

### 子どもたちの食農教育に (10/20)

JAつがる弘前青年部顧問の成田啓輔さんのりんご園地と、東京都葛飾区の社会福祉法人健翠会水元保育園(茂澤尚平園長)をインターネットで繋ぎ、農作業の実況中継を行った。成田さんはスマートフォンを片手に持ち、「ジョナゴールド」の収穫の様子を配信。動画に映ったシルバーシートや防風網などの用途や事前に園児から寄せられた質問に対し、丁寧に答えた。



JA津軽みらい

リンゴ収穫前に熟度調査(10/1)

JA津軽みらいは、本店で晩生種リンゴの熟度調査を行い、リンゴ担当の営農指導員が、果実の大きさや硬度、糖度、ヨード反応を確認し記録した。昨年まで地区ごとに行っていた熟度調査を合同で行った。指導員は「熟度の進み具合などの情報を組合員に周知し、適期収穫による味の良いリンゴの収穫につなげたい」と話した。



JA十和田おいらせ

「地産地消」の拠点に／初日来場者数2千人超え(10/9)

JA十和田おいらせは、ファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」を十和田市三本木里ノ沢にオープンした。初日は開店1時間前から行列ができ、来場者数は2千人を超えた。朝取り野菜のほか、管内の農家が育てた「あもり十和田湖和牛」や近隣でとれた魚類も人気を集めた。おいらせ町の60代女性は「オープンが待ち遠しかった。新鮮野菜を目当てに仲間と一緒にきた」と話した。



JAゆうき青森

ながいも収量9,747 t 見込み

収穫に向け調査実施 (10/15)

JAゆうき青森野菜振興会ながいも部会は、ながいもの収量調査を実施。調査の結果、2020年産の年間出荷量を9,747 tと見込み、今年産の作柄については平年並みとなった。管内の収穫は11月10日から始まり、2020年産秋掘りの出荷は11月20日頃からの予定。部会ではアクや皮むけの発生に注意し、適期収穫を行ってほしいと呼びかけた。

女性部栽培ハロウィンカボチャを収穫(10/17)  
JAおいらせ女性部三沢支部は、JA本店近くの畑で育てたハロウィン用カボチャの収穫を行った。地域イベントの中止等で女性部の活動が減少する中、地域の子どもたちにハロウィン気分を楽しんでほしいと栽培してきた。収穫したカボチャは、ハロウィンに合わせて市内のこども園や公共施設に届ける予定だ。



JAおいらせ



JA八戸

常勤役員と女性部との意見交換会(9/28)

JA八戸女性部は、JA八戸営農・経済本部で常勤役員との意見交換会を行い、女性部役員13人が参加した。

部員からは「農協の組織において、女性管理者が増えることは嬉しい。女性総代も増やしていきたい」「栞ばるじゃサービスで高齢者向けのお弁当を検討してもらえないか」など、活発な意見が出た。

梅内勝子女性部長は「活発な意見を交わすことができた。女性部も積極的に活動していきたい」と述べた。

## JAグループ青森による学生への食支援

JAグループ青森と青森県農協農政対策委員会は、10月7日弘前大学、10月20日青森県立保健大学で、お米・リンゴジュースの贈呈式を行った。

新型コロナウイルスの影響で経済的な影響を受けた大学生・大学院生の申込者全員に、「つがるロマン」(2kg)と「希望の雫」(1000ml×2本)を贈った。

弘前大学で行われた贈呈式では、JA青森中央会の小山主税常務が「健康が第一。そのためには安心して食べることが大事。農家の方々が丹精込めて作ったお米とリンゴジュースをお受け取りください。十分に体と心をご自愛いただき、学業はもちろんのこと、有意義な学生生活を送ってください」とあいさつした。弘前大学の福田眞作学長は「今回の食による支援が学生の健康維持や不安解消につながるものと感謝します」と述べた。

学生を代表して、理工学部2年の佐藤一輝さんが、小山常務より贈呈品を受け取った。

また、青森県立保健大学で行われた贈呈式では、上泉和子学長が「学生に対するJAグループ青森による温かい支援を嬉しく思う」と述べた。

### 〈弘前大学〉



▲小山常務(右)から贈呈品を受け取る佐藤一輝さん(中)と福田学長

### 〈青森県立保健大学〉



▲贈呈品を受け取る佐藤遼典さん(真ん中)

贈呈品を受け取った理学療法学科3年の佐藤遼典さんは「11月からの実習は1ヵ月前からアルバイトが禁止。収入がなく困っている時に、青森県産の農産物を頂けることに感謝している」と述べた。

この取組みは県内の国公立大学の学生を対象としており、10月19日に青森公立大学でも贈呈式が行われた。

## 復旧・復興を支援

JAグループ青森四連は10月8日、JAグループ福岡に「7月豪雨および9月の台風10号等被害への見舞金」100万円を贈った。

JA青森中央会の阿保直延会長がJA福岡中央会を訪れ、乗富幸雄会長に目録を手渡した。

見舞金の贈呈は、10月5日に開いた県農協農政対策常任委員会で決定しており、JAグループ鹿児島、JAグループ熊本などにも贈呈された。



▲乗富会長(左)に目録を手渡す阿保会長

## 農家と交流／農業・農産物への理解深める

JAグループ青森は10月13日、鶴田町で東奥日報社の女性倶楽部(くらぶ)「女子〇(ジョシマル)」のイベント「日本一の生産量!おいしさまるごとスチューベンづくしツアー in 鶴田」を開いた。参加者20人は、特産のスチューベンの収穫体験や、農家との交流を通じて、農業や地元農産物への理解を深めた。

収穫体験は、鶴田町で1.1ヘクタールのスチューベンを栽培する、JAつがるにしきた鶴翔ぶどう部会の成田良一部会長の圃場で行った。成田部会長は、1年間の作業内容や収穫方法について「雨が続く6月は、病気が発生しやすくなるため、細心の注意を払っている。色が黒いスチューベンは甘みが強くおいしい証拠なので、色を見極めて収穫してほしい」と説明。

参加者はスチューベンを収穫しその場で味わい

ながら、畑の管理や、家庭菜園でブドウを育てる際の注意点などを質問し、成田さんと交流を深めた。

青森市から参加した30代の女性は「成田さんと直接話して、丹精込めて育てていることがわかった。こんなに甘くておいしいブドウが食べられて、とてもうれしい」と話した。

参加者らは、道の駅つるたでスチューベンを使った餃子や大福を味わったほか、WANOWワイナリーでワインの仕込み体験も行った。



▲成田部会長の説明を受ける女子〇会員

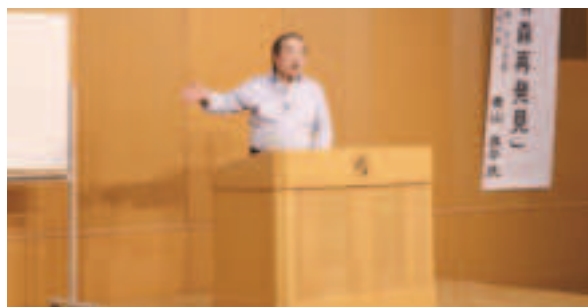
### 常勤役員・幹部職員が青森を再発見する

青森県JA協議会は10月14日、青森市のアップルパレス青森で「JA常勤役員・幹部職員研修会」を開いた。県内各JA・連合会から常勤役員ら80人が出席。

青森放送(株)ラジオ局ラジオ編成制作部の青山良平氏を講師として招き、「おもしろ青森再発見」と題して講演。青山氏は津軽弁と南部弁の違いだけではなく、同じ津軽地区の津軽弁でも違いがあると、方言が持つ魅力を伝えていた。

取材で訪れたマレーシアのイバン族との交流では、言葉が異なっても、思いは伝わるとした。

講演の最後には、「十二湖の中でも有名なのは青池だが、野菜の名前の付いている池は何か(答:牛蒡の池)」などいくつかクイズを出題し、回答した参加者にCDなどの景品をプレゼントした。



▲方言の魅力を説明する青山氏

### 青森県農協青年部協議会が国会議員要請

青森県農協青年部協議会の浪岡篤志委員長は10月24日、「高収益作物次期作支援交付金」にかかる要請を、青森県選出の国会議員に行った。

「高収益作物次期作支援交付金」は、10月12日に農林水産省による大幅な見直しが公表され、生産現場から強い反発を受けている。

要請の内容は、①新型コロナウイルス感染症対策として設置された「高収益作物次期作支援交付金」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたすべての農業者が次期作に万全に取り組めるよう、運用を元通りにすること、②「高収益作物次期作支援交付金」に必要な予算額については、補正予算や予備費等により、必ず確保することの2点。

浪岡委員長の要請に対して、江渡聡徳自民党青森県連会長は「財政上は厳しいと思うが、政府や農林水産省に働きかけていく」と述べた。



▲江渡自民党青森県連会長(右)に要請書を手渡す浪岡委員長

### 行事(11/10~12/10)

#### 11月

- 11日 プレスツアー(JAゆうき青森)
- 11日 第1回資産査定担当部課長会議(県農協会館)
- 11日 県参協定例会(県農協会館)
- 12~13日 令和2年度上半期監事監査(県農協会館)
- 21日 認証上級試験(県農協会館)
- 25日 定例理事会(県農協会館)

#### 12月

- 2~3日 法人税・税効果会計基礎研修会(県農協会館)
- 3日 新任非常勤役員研修会(教育研修所)
- 3~4日 県参協定例会・研修会(弘前パークホテル)
- 4日 県青年部役員会(アラスカ会館)
- 4日 県青年大会(アラスカ会館)
- 7日 臨時総会・臨時理事会(県農協会館)
- 8日 JA総務管理担当常勤理事会議(県農協会館)
- 8~9日 中堅職員研修会2(教育研修所)

## コロナに負けるな！ JAバンクローン県産品応援キャンペーン

JAバンク青森では2020年12月から『コロナに負けるな！JAバンクローン県産品応援キャンペーン』を実施する。

このキャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、消費減退などの影響を受けている県産農畜産物の消費を応援するため、10月から実施している「コロナに負けるな！JA住宅ローン県産品応援キャンペーン」と同じ目的で、JAマイカーローンをはじめとしたJAバンクローンの新規ご契約者を対象に実施するもの。

キャンペーンの詳細や各JAが取扱うローン商品に関するお問合せは、最寄りのJA窓口またはJA渉外担当者まで。

また、JAバンクローンご利用に際し、ご来店の時間がとれない方、借入可能かどうか事前に知りたい方は、パソコンやスマートフォン・タブレットから24時間365日いつでも気軽にお申込みができる「JAネットローン」を是非ご利用ください。

- ◆ キャンペーン期間  
2020年12月1日（火）～  
2021年4月30日（金）
- ◆ 対象者  
期間中に、新規でJAマイカーローン・JA教育ローン・JA多目的ローン・JAフリーローンのいずれかをご契約された方
- ◆ プレゼント内容  
以下の商品（Aコース～Cコース）から1品をプレゼント



### 【キャンペーン商品の主なお使いみち】

#### JAマイカーローン

- ・自動車・バイク・除雪機（いずれも中古含む）の購入資金

- ・他金融機関・信販会社等からの借換資金（残価設定型クレジット含む）

#### JA教育ローン 一般型

- ・就学されるご子弟またはご本人の教育に関する全ての費用
- ・他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換に伴う諸費用

#### JA多目的ローン・JAフリーローン

- ・家電・家具購入や冠婚葬祭など、使いみちは自由
- ※JA多目的ローンは資金用途証明が必要です。
- ・他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換に伴う諸費用（ただし、負債整理は除く）

インターネットなら24時間いつでも簡単・便利にお手続き!!



JAネットローン

検索

### 行事 (11/10～12/10)

#### 農林中央金庫

#### 11月

- 10日 JAバンク青森アカデミー第5期「管理職コース」第2部（ラプラス青い森）
- 11日 不祥事防止実践研修（県農協会館）
- 13日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 17～18日 相続相談対応研修（県農協会館）

#### 12月

- 7～8日 JAバンク青森アカデミー第5期「管理職コース」第3部（ラプラス青い森）
- 8日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 8日 第二種証券外務員研修（ウェブ会議）
- 9日 内部管理責任者資格取得研修（ウェブ会議）



## ごぼう販売対策会議

JA全農あおもりは10月9日、十和田市の（一社）上十三広域農業振興会でごぼう販売対策会議を開き、JA担当者ら12名が出席。

令和2年産の出荷計画数量を1万2千800トン、販売目標価格を1キロ180円と設定したことを報告。作柄調査の結果からM・2M級中心で短根傾向であることや、JAからの積上げ数量を勘案し設定した。全国的に豊作だった前年産と比べると、数量は20%減となる。

目標達成に向けて、①作柄・出荷状況についての確な産地情報の提供②重点市場に対する計画安定出荷③量販店等に対する販売企画への対応強化などに取り組む。

また、例年実施している販促員を設置した消費宣伝会が、新型コロナウイルスの感染拡大により販促資材の掲示のみに限られているため、テレビ・ラジオ番組等への情報提供や広告掲示による消費喚起に取り組むこととした。

2年産の生育は、6月下旬から8月上旬までの長雨・日照不足により生育が抑制されたが、8月中旬以降の高温・多日照で回復傾向となっている。

全農あおもりやさい部の平山智樹部長は「前年産は全国的な豊作により、今までになく販売に苦戦した年であった。今年産の本格的な出荷を迎えるにあたり、生産者の手取りを確保できるよう販売対策に協力をお願いしたい」と話した。



▲販売対策について協議

## 「青天の霹靂」新米発売記念イベント

JA全農あおもりは令和2年産米「青天の霹靂」を全国一斉に発売した。これにあわせて、青森市のイトーヨーカドー青森店で『「青天の霹靂」新

米発売記念イベント」を開いた。開店と同時に特設ブース前に並んだ来店客と一緒に、販売開始を祝った。

青森市のイトーヨーカドー青森店では青天の霹靂を2キロ1,058円、5キロ2,354円、10キロ4,708円で発売。その他、青天の霹靂を使用したお弁当やおにぎりを販売。また、青森米購入者限定プレゼントとしてガラポン抽選会を実施。セブン&アイ商品券、青森県産ながいも、りんごジュースを計350名様にプレゼントした。

また、お米大使特大撮影パネルの設置や三村申吾青森県知事・ミスクリーンライスらによるPRなど賑わいを見せた。



▲青天の霹靂を買い求める来店客

## ながいも作柄調査

JA全農あおもりは10月13・14日、県南4JAのほ場19か所を対象とした令和2年産ながいもの作柄調査を行った。

今年のながいもの長さや重量などの肥大状況について調査した。本年は7月の長雨の影響から生育の遅れがみられたが、8月中旬以降の好天により肥大は回復傾向となっている。



▲ながいもの作柄を調査

年間の販売計画策定に向けた詳細な見直しについては、県内各JAの状況もふまえて総合的に判断し、今後、取引先を含めた会議で協議をしていく。

### 「『スゴ盛』青森いきいきやさいセットを買って県産品を当てよう！キャンペーン第3弾」プレゼント抽選会

JA全農あおもりは10月16日、青森市の県農協会館で「『スゴ盛』青森いきいきやさいセットを買って県産品を当てよう！キャンペーン」第3弾のプレゼント抽選会を開き、当選者1人を決定した。当選者には、あおもり黒毛和牛焼肉用カルビ500gをプレゼントする。

第3弾は9月1日から30日までに産地直送通販JAタウン「JA全農あおもりショップ」で青森いきいきやさいセットを注文し、10月15日までにレビューを投稿した方が対象。「どの野菜もとても綺麗で美味しく満足」「初めて食べた毛豆が食べ応えと甘みがありとっても美味しかった」などのレビューがあった。

抽選した全農あおもりりんご部の坂本浩部長は「キャンペーンを通じ、多くの方に県産やさいの魅力を発信できたと思う」と話したうえで、「出来秋を迎え、JAタウンでは、早生ふじやトキなど、旬のりんごをラインナップしている。日本一の生産量を誇る青森りんごをぜひご賞味いただきたい」と話した。



▲キャンペーン抽選会

### 危険物取扱者乙種4類講習会（秋期）

青森県JA-S S運営協議会は10月19、20の2日間、青森市の県総合社会教育センターで、令和2年度危険物取扱者乙種4類講習会（秋期）を開いた。JA-S S担当者のスキルアップを目的に毎年開いているもので、JA担当者ら16人が出席

した。

出席者は資格取得に向けて、①危険物の性質と火災予防・消火方法②物理学と化学の基礎知識③危険物に関する法令—について、出題ポイントを学んだ。最後に練習問題と模試に取り組み、知識を深めた。

JA全農東北エネルギー事業所青森推進課の高橋次郎課長は「今回の講習が、資格取得に向けたバックアップに繋がれば嬉しい。取扱者資格を取得することで、自身のスキルの幅が広がり、職場での強みとなる。資格取得に向け勉強に励み、専門知識を職場で活かして欲しい」と呼びかけた。



▲講習に取り組む受講者

### 新米キャンペーン実施中！



詳しくは特設サイトまで。



### 行事（11/10～12/10）

- |        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 11月    |                                       |
| 25日    | 運営委員会（県農協会館）                          |
| 26～27日 | りんご病害虫効率の防除研修会（田舎館村文化会館・南部町ふれあい交流プラザ） |
| 12月    |                                       |
| 7日     | 臨時運営委員会（県農協会館）                        |

## JA共済きすなの青い森プロジェクトの開催

JA共済連青森は10月2日、「JA共済きすなの青い森（平内町弁慶内地区・平内町山村開発センター）」を開催し、JA青森女性部の部員・平内町のシニアボランティア団体（もつけ衆）・青森県生活協同組合連合会役職員・平内町役場職員約40名を招待した。

本プロジェクトは、森が地域や農業にもたらす恩恵や役割の理解を深めてもらうとともに、参加者どうしのきすなを深めることを目的に、JA共済ビジネスサポート（株）と森林組合あおもりの協力のもと、平成29年度より実施している。

参加者は、除間伐作業観察、樹種観察、植樹体験等の自然体験をした後、平内町消防署のご協力のもと、ジェットシューターや水消火器を使った消火疑似体験を行い、消火活動の大変さを学んだ。

また、青森県生活協同組合連合会「食品の安全推進委員会」の協力のもと、県産のブランド米や肉・野菜等の食に関するゲームを行うとともに、食品ロスに関する問題を一緒に考えた。

プログラム最後の木工クラフトでは、スギ材を使用したプランター・椅子づくりに挑戦し、様々な形で森と触れ合った。



▲参加者の皆さん

## JA共済健やか隊員育成研修の開催

JA共済連青森は10月14日、青森市のホテル青森において、青森県医師会健やか力推進センターと連携して、健康づくり活動を推進する職員を育

成することを目的とした、「JA共済健やか隊員育成研修」を開催した。

会場では、青森県農協会館に在籍する各連合会の職員と県内JAの職員 総勢42名が出席し、健康教養講義と栄養講座による健康に関する知識の向上、健康・体力測定（体組成計等）による自身の健康状態の把握のほか、ワークショップを取入れ、今後実施したい職場内の健康づくり活動を策定し発表した。

また、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授中路重之氏による健康教養講義では、他県と比較した青森県の平均寿命と、短命県を返すべく県内企業の取り組み事例や、効果的な健康づくりについて紹介され、受講者は熱心に聴講していた。

研修の最後には、受講者を代表してJAおいらせの佐藤愛弓さんが、青森県医師会健やか力推進センター中路重之センター長より修了証を受取り、今後の抱負を述べた。



▲健康教養講座において熱心に語る中路重之氏



▲受講生を代表して、今後の抱負を述べるJAおいらせの佐藤愛弓さん

## 令和2年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール審査会の開催

JA共済連青森は9月26日、野辺地町のまかど観光ホテルにおいて、「令和2年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール審査会」を開催した。

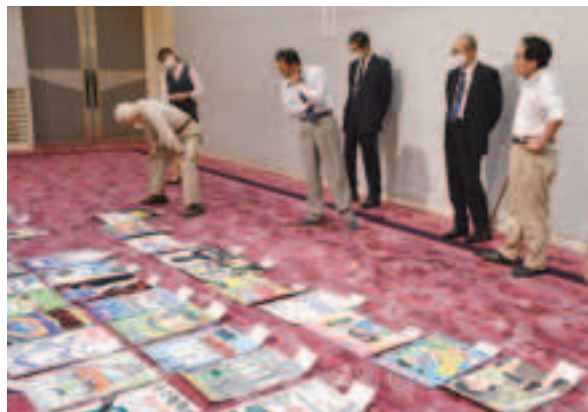
両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚を図り交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、重要な地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

今年度の応募作品は、県内の小・中学生から合わせて書道が349校から、8,306点、交通安全ポスターは110校から、593点の作品の応募があった。

各審査委員の厳選なる審査の結果、書道半紙・条幅の部および交通安全ポスターの部あわせて、最優秀賞27点、特選27点、準特選27点と奨励賞81点が選出された。



▲書道の審査風景



▲交通安全ポスターの審査風景

書道コンクールは昭和33年1月にスタートし、今年度で64回目を迎え、交通安全ポスターコンクールは昭和53年から43回を数えるなど、質、応募点数ともに県内屈指のコンクールとして高い評価をいただいている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、全国コンクールが中止となったが、新型コロナウイルス感染症を吹き飛ばすような、生き生きとした力強い作品が数多く寄せられた。

## 令和3年1月実施予定の自動車共済仕組改訂・事務改善事項研修会の開催

JA共済連青森は10月19日・20日、青森市の青森県トラック協会研修センターにおいて、令和3年1月実施予定の「自動車共済仕組改訂・事務改善事項研修会」を開催し、県内各JAから2日間総勢124人が出席した。

同研修会では、令和3年1月実施予定の自動車共済仕組改訂等の実施内容や、自動車共済・自賠責共済における引受審査業務の方向性について説明があり、出席したJAの担当職員は熱心に取組んでいた。



▲熱心に取組む出席者

### 行事 (11/10~12/10)

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 11月 |                      |
| 25日 | 運営委員会 (県農協会館)        |
| 12月 |                      |
| 1日  | 共済担当部課長会議 (県農協会館)    |
| 7日  | 臨時運営委員会 (県農協会館)      |
| 8日  | 共済事業担当常勤理事会議 (県農協会館) |

## 米穀の需給及び価格の安定 に関する基本指針の見直し

農林水産省HP ↓ [基本指針 検索](https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/)  
[https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku\\_sisin/](https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/)



### 令和元／2年主食用米等の需給

- 令和元／2年の主食用米等の**需要量**は前年よりも**22万トン減少**し**713万トン**となり、**令和2年6月末民間在庫量は201万トン**となりました。
- 9月15日現在の作況から、**令和2年産の生産量は735万トン**と見込まれ、令和元年産より**9万トン増加**する見通しです。
- 以上から、**令和3年6月末民間在庫量は221～227万トン**となる見通しです。

令和2年産の水稻の作付面積及び9月15日現在の作柄概況

	作況	主食用作付見込み面積 (万 ha)	予想収穫量 (万トン)
R 元年産	99	137.9	726.1
R 2年産	101	136.6	734.6

令和2／3年の主食用米等の需給見通し (単位：万トン)

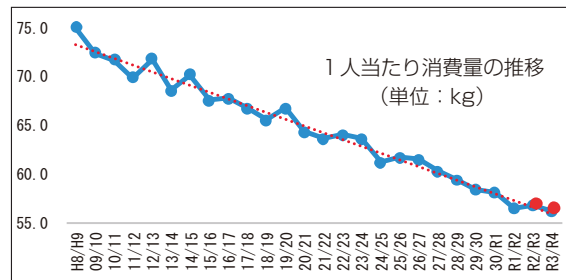
		前回 (7月) の基本指針	今回 (10月) の基本指針 (速報値)
令和2年6月末民間在庫量	A	201	201
令和2年産主食用米等生産量	B	709～717	735
令和2／3年主食用米等供給量計	C = A + B	910～918	936
令和2／3年主食用米等需要量	D	715	709～715
令和3年6月末民間在庫量	E = C - D	196～204	221～227

### 令和2／3年主食用米等の需給

- 主食用米等の令和4年6月末民間在庫量の水準を、令和2年6月末民間在庫量**201万トン**と設定するとすれば、**令和3年産主食用米等生産量は679万トン**となります。

+201万トン 令和4年6月末民間在庫量  
+704万トン 令和3／4年主食用米等需要量  
-227万トン 令和3年6月末民間在庫量  
=679万トン 令和3年産主食用米等生産量  
※四捨五入の関係で計が一致しない

- 1人当たりの消費量は年々減少**しています。この1人当たりの消費量と人口から、**令和3／4年主食用米等需要量は704万トン**となる見通しです。



令和3／4年の主食用米等の需給見通し (単位：万トン)

		今回 (10月) の基本指針 (速報値)	参考値
令和3年6月末民間在庫量	E	221～227	221～227
令和3年産主食用米等生産量	F	679	692 ※
令和3／4年主食用米等供給量計	G = E + F	900～906	914～919
令和3／4年主食用米等需要量	H	704	704
令和4年6月末民間在庫量	I = G - H	196～201	209～215

※ 過去最大の作付削減面積と同規模の面積を削減した場合の参考値

# 実践 農業者支援

## 営農ICT情報システムの概要と今後の対応について

### 1. 概要

第28回JA青森県大会では、「元気な農業へ発信」の中で、「農業者の経営課題に対応した総合的な支援」を掲げ、農業者支援事業の機能強化に取り組むこととしている。その実現のためには、人と人をつなげる通信技術であるICTは、必要不可欠なツールであることから、令和2年10月より「営農ICT情報システム」を本格的に稼働させたところである。

当該システムの特徴は①JA職員が、生産現場においてモバイル端末（スマートフォンやタブレット）を利用することで、迅速な経営相談ができること。②当該システムを介して、農家組合員とJAとの間で相互に情報共有、提供ができること。③地図情報や気象情報、病害虫画像AI診断システム等、幅広いシステム内容であることから、営農指導の一助になることが挙げられる。

本会では、当該システムの活用を通じて、農家が求める迅速な情報提供をはじめとした多様化するニーズに対応するとともに、コミュニケーションの強化を図って参りたい。

今回は、主なシステムの内容、取り組み状況および課題と対応について紹介する。

### 2. 主なシステムの内容

#### (1) 経営分析（JA取引）

農家組合員の販売実績（過去3年間の品目別販売実績）や購買取扱実績をモバイル端末で閲覧可能。農家組合員への経営・営農相談対応の強化が期待できる。

#### (2) 地図情報（GIS）

農地情報をExcel形式にて保有しているため簡単に管理・編集することができ、モバイル端末で閲覧可能。特別栽培米マップの作成やラジヘリによる共同防除等への活用が期待できる。

#### (3) メッシュ農業気象

地図上のメッシュ（1km×1km）単位で過去（1980年から）の農業気象データ（気温・日照時間・雨量等）と最長26日先の予測値・

平均値が利用可能。作物の栽培管理等に活用できる。

#### (4) 市況情報

出荷市場毎（全農取扱）の市況情報をモバイル端末で閲覧可能。様々な現場において市況情報を閲覧することで時間的ロスの解消が期待できる。

#### (5) SNS

JA各部署・青年部・女性部・生産部会等のグループを設定し、双方向（または一方向）での通信が可能。写真・動画・PDFファイルもアップロードできる等迅速な情報共有が期待できる。

#### (6) 病害虫画像AI診断

SNS（病害虫画像AI診断）に病害虫画像をモバイル端末等からアップロードすることで、病害虫の一次判断結果および各JAが取扱う農薬の中から奨励農薬等の情報が表示される。営農指導の一助として期待できる。

#### (7) メーリングリスト

複数のメールアドレスに同時配信可能。メールアドレス毎に双方向・一方向の設定が可能。グループ内での双方向利用のほか「JAからのお知らせ」等一方向での利用に期待できる。

#### (8) グループウェア

現在、JAで運用しているグループウェアにモバイル端末からアクセス可能。どこからでも日程や行事等が確認でき、時間的ロスの解消が期待できる。

#### (9) 利用者総合情報

農家組合員の簡易台帳（住所・電話番号・資格・JA事業の取引の有無等）をモバイル端末で閲覧可能。農家組合員とのコミュニケーション強化が期待できる。

### 3. 取り組み状況

#### (1) 研修会

県域での活用事例紹介等の研修会やJA毎にデモや操作研修会を開催している。

(2) J Aでの取組み

J Aでの取組状況を見ると、J A相馬村・J A津軽みらい・J A八戸では、『SNS』を活用し、農家組合員への情報発信を始めているほか、J Aつがるにしきたでは、法人による稲刈り等の作業管理について『地図情報』を活用する等の取組が進んでいる。

②組合員が求める情報をいかに早く、正確に伝えるかが必要である。

③これらを踏まえ、「期待されるシステム」へと進める必要がある。

(2) 対応

各J Aの担当者を構成員とする「営農ICT情報システム作業部会」を設置し、J A相互の情報交換とその活用方法の具体化を検討していく。また、他県事例の収集や情報のJ Aへの展開、さらには組合員が求めるニーズの把握を進めていく。

(中央会 農業対策部)

4. 課題と対応

(1) 課題

①ICTを活用するためのツールの提供はできたものの、今後は、県内J Aや他県J Aでの活用実例を多くのJ Aと共有する必要がある。



システム操作研修会の様子  
(J A津軽みらい) 2020. 8. 4



『地図情報』に登録の様子  
(J Aつがるにしきた) 2020. 7. 9

『SNS』登録の農家組合員向けチラシ (J A相馬村)

# 実践 自己改革

## JA自己改革をめぐる情勢とこれからの取組みについて

### 1. 政府などの動向

#### (1) 規制改革推進会議の動き

- ① 10月5日には、書面議決により、令和3年6月を目途とする答申の取りまとめ、6つのWG（ワーキング・グループの略）の設置（成長戦略、雇用・人づくり、投資等、医療・介護、農林水産、デジタルガバメント）、議論の円滑化に向けた議長・座長会合の設置、必要に応じての公開ディスカッションの開催等が決定された。
- ② 10月7日には、菅総理、加藤官房長官、河野大臣の出席のもと、議長・座長会合が開催され、当面の審議事項が決定された。  
同会議において、菅総理は、行政手続きや医療・教育のデジタル化を重要課題に掲げ、「行政の縦割り、既得権益、悪しき前例主義を打ち破って、規制改革を全力で進める」旨を発言した。
- ③ 農林水産関係では、小林議長および佐久間農林水産WG座長は、同会議並びに記者会見を通じて、農林水産業に意欲ある人材を呼び込み育成するための環境整備を行うこと、そのために農協改革をはじめ、生産者の所得向上、新規参入・規模拡大の促進、生産性の向上、さらにはデジタル化対応の設備や輸出ビジネス展開等に向けて、生産者の資本充実や資金調達の円滑化等について検討を進める旨を発言した。  
また、当面の審議事項では、「強い農業の創出による地域経済の活性化」と記載された。
- ④ 農林水産WGは、10月19日より再開され、WGの重点事項や農産物検査等について議論が行われるもようである。以降は、月2回程度の開催が見込まれるが、現時点で農協改革の議論の時期は不明となっている。
- ⑤ 今後、農協改革関連については、令和3年4月を目途とする准組合員の事業利用規制の検討・結論、3年6月の令和3年度版規制改革実施計画に向けて、予断を許さない状況が続くと想定される。

#### (2) 農林水産省の動き

##### 【農協改革の評価と課題】

- ① 農水省は、5月14日の農林水産WGにおいて、「JAグループの自己改革は進展」と評価したうえで、課題を「農業者の所得向上に向けた取組の継続・強化」「農協経営の持続性の確保」とした。
- ② 農業者の所得向上については、「農協の自己改革に関するアンケート」（認定農業者等アンケート）を実施し、認定農業者等における自己改革の評価を測定としている。  
また、農業者の所得増大事例について、指導機関ヒアリングや行政庁とJAとの対話を通じて収集を行うとしている。

##### 【農協の自己改革に関するアンケート調査（認定農業者等アンケート）】

- ① 農水省は、平成28年度から毎年、JAおよび認定農業者等を対象にアンケート調査を実施しているが、自己改革を評価する認定農業者等は約4割にとどまり、JAの回答との間に大きなギャップがある（問1～3）。

##### 【農水省「農協の自己改革に関するアンケート調査」結果】（抜粋）

設問	項目	回答者	28年度	29年度	30年度	元年度
問1	組合員との徹底した話し合い「進めている」	JA	48.9%	76.6%	90.2%	86.3%
		認定農業者等	21.9%	30.6%	35.2%	38.1%
		(差異)	(27.0%)	(46.0%)	(55.0%)	(48.1%)
問2	農産物販売事業の見直し「具体的取組を開始」	JA	68.0%	87.7%	93.8%	91.4%
		認定農業者等	25.6%	32.2%	38.3%	40.4%
		(差異)	(42.4%)	(55.5%)	(55.5%)	(51.0%)
問3	生産資材購買事業の見直し「具体的取組を開始」	JA	65.5%	88.3%	93.6%	91.7%
		認定農業者等	24.0%	34.1%	42.1%	43.7%
		(差異)	(41.5%)	(54.2%)	(51.5%)	(48.0%)

- ② 令和2年度調査は、10月以降の実施予定とされていたが、コロナ禍により実施が遅れている。



## 2. JA自己改革にかかる今後の取組み

### (1) 課題と取組みの考え方

- ① これまでの規制改革推進会議や農水省等の動きをふまえれば、政府の規制改革実施計画への対応にかかる課題およびJAグループの取組みは、下表のとおり整理される。

#### 【規制改革実施計画における農協改革の課題と必要となる取組み】

主な課題	必要となる主な取組み
農業者の所得向上に向けた取組みの継続・強化	「不断の自己改革」の取組みの実践
農協経営の持続性の確保	持続可能なJA経営基盤強化の確立・強化、重大不祥事対応
准組合員の意思反映	准組合員の意思反映の取組みの加速化
「組合員の判断」の明示	「組合員の判断」の見える化

- ② JAグループにとって最大の焦点である准組規制の回避については、規制改革推進会議では主な課題が総合的に議論されるものと想定される。JAグループとしては、主な取組みを全体的に展開していく必要がある。
- ③ 「農業者の所得向上に向けた取組みの継続・強化」への対応としては、「不断の自己改革」の取組みの徹底が最重要となる。  
また、農水省の評価指標は、認定農業者アンケートおよび農業者の所得増大事例であり、とりわけ認定農業者等の評価向上が重要である。
- ④ 「農協経営の持続性確保」については、持続可能なJA経営基盤強化の確立・強化に向けた重点取組み（経済事業の収益力向上・収支改善、店舗・ATM再編、市場運用をふまえた調達管理）、国際金融規制にかかる法整備への対応等が必要である。  
また、重大不祥事の発生は、JAグループに対する攻撃材料になりかねず、不祥事の未然・再発防止に徹底して取組むことが必要である。
- ⑤ 「准組合員の意思反映」については、本年4月JA全中理事会決定「農協法5年後見直しを見据えたJA自己改革の取組方針」等をふまえた准組合員の意思反映の取組み加速化が必要である。
- ⑥ 「組合員の判断」の明示については、与党公約「准組規制は組合員の判断」に対応して、准組合員の位置付けをふまえた今後の自己改革の取組方針を検討協議するなど、「組合員の判断」をJA内外に見える化することが必要である。

### (2) 令和2年度下期の最重要取組み

#### 【「不断の自己改革」の取組みの実践】

- ① 担い手評価向上に向けた対話運動  
農水省の令和2年度「農協の自己改革に関するアンケート」の准組規制の議論に与える影響をふまえ、認定農業者等からの自己改革の評価50%以上の獲得を目標に、JAグループを挙げて対話運動に取組む。
- ② 農業者の所得増大の実践  
購買事業・販売事業において、これまでJA自己改革として進めてきたことの継続と効果の見える化について取組む。

#### 【准組合員の意思反映の取組み加速化】

- ① 規制改革実施計画において准組合員の意思反映が求められているが、意思反映の概念・範囲が相当に広範であること、規制改革推進会議の真意が現時点で不明であること、令和3年度以降は准組合員の意思反映の取組み状況が規制改革推進会議にフォローアップされる可能性があること等をふまえ、各JAにおいて、令和2年度下期より、准組合員の意思反映について必要最低限の取組みについて検討を進める。
- ② 具体的には、各JAにおいて、当面の取組みとして、令和2年度下期中に准組合員の位置付けを明確化するとともに意思反映にかかる取組み方針を策定し、令和3年度より個別の取組みの実践を行う。

農協法5年後見直し条項の期限が令和3年3月末となっていて、これから5月までの、JAグループとしての自己改革の取組みが重要な鍵となることから、本会から依頼している「組合員との対話の継続」について、積極的に各JAにおいて取組んでいただくとともに、准組合員の在り方・意思反映の取組みについて、各JAとともに検討・協議を重ねていくこととする。

また、農協改革の課題の中の「農協経営の持続性の確保」の主な取組みについては、本会経営対策部より、10月6日開催の「JA総務管理担当常勤理事会議」および10月23日開催の本会理事会において報告しており、今後各JAへ説明していくこととしております。

(中央会 農業対策部)

# 組織農政通信

## 予算・税制等をめぐる情勢

政府・与党は、臨時国会を10月26日に召集し、令和3年度予算、補正予算（TPP等対策などを含む）の編成、日英EPAの承認案について議論を行う予定である。

10月6日に、自民党農林部会等の人事が行われ、農林部会長には宮下一郎議員（衆・長野5区）が就任した。また、10月13日に、立憲民主党の常任委員会が開かれ、農林部会長に田名部匡代議員（参・青森）が就任した。

### 1. 来年度予算等の動向（政府・与党の動向）

- ① 来年度予算（一般会計）の概算要求総額は、過去最大の105兆4,071億円（うち農水省関係：2兆7,734億円）となった。
- ② 各省庁において、コロナ禍をふまえた「新たな日常」の実現に向けた対策や、デジタル化対策等、菅総理が重点分野に位置付ける事項を要求するとともに、コロナ対策を中心として、要求額を明示せずに政策項目だけ記載する「事項要求」が行われている。
- ③ また、二階幹事長・下村政調会長・森山国対委員長など与党幹部は、新型コロナウイルスの追加経済対策の策定や、3次補正予算案の編成について言及している。
- ④ 今後、12月中下旬の当初予算編成に向けて財務省と各省庁の折衝が重ねられるとともに、例年どおりTPP等対策や国土強靱化対策を含め、追加経済対策や補正予算の議論が本格化すると見込まれる。

### 2. 主な概算要求

#### （1）地方回帰・地方創生関係

- ① 地方への人の流れの創出・拡大

地域おこし協力隊の強化、地域運営組織の形成及び持続的な運営支援、関係人口を活用した地域の担い手確保等（8.1億円・総務省）

- ② 自立分散型地域経済の構築、過疎地域の持続的発展等の支援

地域資源を活かした地域の雇用創出と分散型エネルギーの推進、新たな過疎対策の推進（21.8億円・総務省）

- ③ 地域経済の強化と一極集中是正

観光、農業など成長が期待される地域資源を活用した地域経済の持続的発展の促進等（132億円・経済産業省）

- ④ 観光の再生と新たな展開

「新たな旅のスタイル」の普及・定着や、インバウンドの再開を見据えた戦略的プロモーションと水際対策の推進等（452億円・国土交通省）

- ⑤ 里山の保全・活用

里地里山の保全・活用に関する先進的・効果的な活動の支援、里地里山でのスモールビジネス創出のための人材育成（1.8億円・環境省）

- ⑥ 地方移住を視野に入れたテレワークの推進

新たな交付金を創設し、テレワークの推進により地方への新たなひとの流れを創出する地方公共団体の取組みを支援（150億円・内閣府）

- ⑦ 関係人口の創出・拡大

民間事業者等による都市住民と地域のマッチング支援、全国の官民関係者が参画する協議会の運営（3億円・内閣府）

- ⑧ 地方創生に向けたSDGs推進事業

優れた取組みを提案する「SDGs未来都市」の選定、「自治体SDGsモデル事業」

への資金的支援等（12.4億円・内閣府）

⑨ 地方創生推進交付金

地方公共団体の先導的な事業を支援し、地方の創意工夫を引き出し、実情に応じた地方創生の取組みを推進（1,000億円・内閣府）

## （2）デジタル化

① 国・地方を通じたデジタル・ガバメントの推進

行政手続のオンライン化、AI・RPAの活用、システム標準化、テレワーク、セキュリティ対策等の基盤整備等（139.5億円・総務省）

② デジタルを活用した産業の転換

デジタル技術を活用して新たなイノベーションを生み出す企業の経営革新の加速化等（約1,164億円・経済産業省）

③ 食品表示のデジタルツールの活用等

容器包装に限らない表示の検討に必要な実証・調査、インターネット販売における食品表示のあり方を検討（1.2億円・消費者庁）

④ 地方における Society5.0の実現

専門家派遣による未来技術の社会実装の推進や地域におけるデータ活用の推進等（1.2億円・内閣府）

## （3）災害・震災復興対策

① 「流域治水」への転換

堤防整備、ダム建設・再生などの対策の加速化、流域のあらゆる関係者による水災害対策の推進等（5,027億円・国土交通省）

② 総合的な防災・減災対策等に対する集中的支援

頻発する風水害・土砂災害や大規模地震・津波に対する防災・減災対策など、地方公共団体等の取組みの集中的支援（7,847億円・国土交通省）

③ 広域的な産地づくり支援

広域的に生産、加工等が一体となった高付加価値生産等を展開する産地創出に必要な施設整備等を支援（53億円・復興庁）

## （4）事項要求

① 新型コロナウイルス感染症への対応など緊要な経費（厚生労働省）

② サプライチェーン強靱化対策、需要喚起対策、5G等の基盤技術開発、新しい日常に向けた事業再構築・事業再編等（経済産業省）

③ 3か年緊急対策後の激甚化・頻発化する自然災害への対応、新型コロナウイルス感染症への対応等（国土交通省）

④ 地域における「新しい生活様式」への対応の推進に係る経費及び先導的人材マッチング事業（内閣府）

（参考）防災・減災、国土強靱化緊急対策に係る経費や「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費（農林水産省）

## 3. JAグループの取り組み

① 12月中下旬の概算決定に向け、今後も政府・与党の動向を注視し、9月全中理事会で決定した「令和3年度農業関係予算に関する要請」に基づき、品目別・課題別に都道府県中央会と連携しながら、与党農林関係議員を中心に働きかけを行う。

② 追加経済対策・補正予算については、政府・与党の動向を注視しながら、現場の影響・要望や政府・与党の動向をふまえ、万全な対策の確保に向け取り組む。

③ また、12月中旬の税制改正大綱の決定に向け、10月全中理事会で決定した「令和3年度税制改正要望」に基づき、農水省や関係団体と連携し、与党農林関係議員及び税制調査会幹部議員を中心に働きかけを行う。

④ 本県としても、11月4日と5日に県選出国會議員に対して、高収益作物次期作支援交付金の支給要件変更に伴い、不支給となる案件が生じることから、変更の見直しを行うよう要請を実施した。

（中央会 農業対策部）

# 経営の窓口

## 協同組合等における独占禁止法コンプライアンスの取組状況について

### 1. はじめに

公正取引委員会（以下、公取委）は2019年11月以降、JAを含む協同組合等を対象に、独占禁止法（以下、独禁法）コンプライアンスに関する取組状況調査（アンケート調査、ヒアリング調査）を実施した。

その調査結果が、2020年6月25日に公表された。内容は公取委HP（※）より確認できるが、今回はその概要について紹介する。なお、調査結果は他の協同組合等（事業協同組合・商工組合・漁業協同組合および連合会）も含んだ結果であり、JAグループは全体の3割であることに留意願いたい。

（※）URL：[https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2020/jun/200625\\_5.html](https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2020/jun/200625_5.html)

### 2. 独禁法コンプライアンス取組状況調査の結果概要

#### （1）独禁法コンプライアンスに関する取組みの実態

独禁法コンプライアンスに関して取組みを実施していない組合は57.2%となった。取組んでいない理由として、問題が発生していないこと（81.9%）、組合員の要望がないこと（32.2%）、専門知識がないこと（18.7%）、取組体制（人員・予算等）がないこと（16.9%）が挙げられた。これに対し、独禁法コンプライアンスに関する取組みを実施するに至った契機としては、中央会等支援機関からの促進（70.6%）に次いで、組合等で必要性を感じたこと（64.7%）が多くなっている。

#### （2）独禁法コンプライアンスを推進する上での課題

独禁法コンプライアンスを推進する上での課題として次のことを懸念材料として挙げる組合が多かった。

- ① 専門的な知見の欠如に関する課題……独禁法に関する専門的な知識がなく取組方針が定まらないこと。
- ② 取組みの継続に関する課題……役職員の退任・異動により、独禁法への理解度が下がってしまうこと。組合員代表者の世代交代により、当事者意識が薄れていくこと。
- ③ 役職員の遵守意識の醸成に関する課題……役職員が自ら独禁法を遵守すべきとする意識が浸透しないこと。
- ④ 人員や予算に関する課題……事務局が組合員との意見交換を実施するには、人員不足で手が回らないこと。外部講師を招いて研修会を開催する予算がないこと。
- ⑤ 優先度に関する課題……コンプライアンスの観点ではハラスメントや反社勢力への対応等もあり、担当職員に限られるなか優先度が低くなってしまふこと。

#### （3）独禁法に関する認識等

独禁法違反となる行為がどのような行為であるかを把握している組合は、47.5%と半数を切っている。また、一定の条件を満たす組合等の行為は独禁法の適用が除外される「適用除外制度」について、把握していない組合が48.7%、組合が不公正な取引等を用いた場合には適用除外の対象外となることまで把握している組合は22.5%となっている。事業者自らが関与したカルテル等について、違反内容を公取委に自主報告した場合は課徴金が減免される「課徴金減免制度（リニエンス）」を把握している組合は6.1%、独禁法違反の疑いについて、公取委と事業者との合意により自主解決をする「確約手続」の内容を把握している組合は4.0%であった。

### 3. 独禁法コンプライアンスの推進に向けて

上記結果を見るに協同組合等全体では、独禁法コンプライアンスに関する取組みをしている組合は4割強に留まっている。公取委は、6割の組合が販売事業を行っているのに対し、独禁法違反行為等への理解が薄いことを挙げ、組合においても独禁法コンプライアンスの推進が必要であるとしている。

公取委では、人員・予算等の都合により取組体制が整っていない実態を踏まえ、着手しやすいものから無理のない方法で取組みを進めることが望ましいとしている。具体的取組みとして組合代表者によるコンプライアンスに関するメッセージの発信等を挙げており、その他の詳細については本調査の報告書を参照されたい。

### 4. JAグループでの取組みについて

JAグループでは、2017年に「独占禁止法遵守に向けた今後の取組方針」を定め取組みを推進し、本県においても自主（店）検査チェックリストの整備により独禁法遵守のための自主点検を実施している。また、本年12月開催予定の総務・管理担当部長会議において、独禁法改正を含む同法の情勢について報告する予定である。独禁法コンプライアンスの推進については、今後とも本会から支援をするとともに、JAでの積極的な取組強化をお願いしたい。

（中央会 経営対策部）

## フレミズ交流会

青森県 J A 女性組織協議会フレッシュミズ部会は7月2日、青森市でフレミズ交流会を開いた。県内3 J A 4支部から、フレミズ部員ら10名が参加。近年、新たなインテリアとして話題のハーバリウムの製作体験を通じ、交流を深めた。

製作体験は、青森市内で造花やハーバリウムの製作教室を開催している横内恵美子さんの自宅教室で行った。

参加者は、円錐や四角柱など好みのビンの形を決めた後、数十種類あるドライフラワーの中から好きな花をいくつか選び、横内さんから指導を受けながら、長いピンセットを器用に使い、1人2本のハーバリウム製作に取り組んだ。中には、ハーバリウムボールペンの製作を希望する人も数名おり、それぞれ個性あふれる色鮮やかな作品を作り上げた。

製作時間は2時間ほどで、製作を終えたフレミズ部員は、「ビンの中で思うように花を置くことが難しかった」や「完成した作品を見ると、作った人の性格が出て面白い」と話していた。

昼食会では、フレミズ部員ならではの子育ての話や各 J A におけるフレミズ活動についての情報交換をはじめ、各支部におけるイベントの近況報告や今後の活動について話し合った。

今回の交流会は、フレミズ部員に限らず、非農家の女性部に所属していないフレミズ層に当たる女性2名も“お試し”として参加し、今後はこのような若年女性部員の増加にむけた活動に力を入れていく。



## 県女性協役員視察研修

青森県 J A 女性協議会は8月5日から6日、大鰐町、西目屋村、弘前市の3市町村を巡る1泊2日の県内役員研修を行った。

県女性協7名の役員が参加し、1日目の研修では、おおわに自然牧場で燻製作り体験を行った。燻製作りは、段ボールを組み合わせた簡易的な燻製器を使用し、同牧場で飼養している南津軽昔豚の塩漬けやチーズなどを桜のチップで約1時間燻して完成させた。役員らは、燻製が想像よりも簡単できることに驚いたり、豚の飼養期間や卸先などに関心を持ち、熱心に質問したりしていた。

2日目は、ブナコ株式会社西目屋工場にて、工場見学とブナコの製作体験を行った。製作体験は、職人が手本を見せながら指導し、直径24センチのブナの巻き板から大皿を製作するという内容となっている。



役員らは、ブナコ特有の曲線や立体感を湯飲み茶わんで出すことや想像よりも握力を使うことに苦戦しながらも、個性あふれる作品を完成させた。

今回の研修は Go To キャンペーンも活用し、J A 自己改革についての研修やニシメヤダムレイクツアー、さらに花の寄せ植え体験も行った。

役員らは、これら研修から得た知識や繋がりから、青森県 J A 女性協議会および各 J A 女性部において、さらなる発展、活性化を目指した活動を展開していく。



農林中央金庫 青森支店  
営業第2班  
ひらおか よしき  
平岡 良規 さん

# 輝き

●プロフィール  
2018年4月から勤務 神戸市出身 24歳

## — 働くきっかけは？ —

大学時代に地方活性化について研究しており、地方では第一次産業が経済的に大きな役割を果たすことを学びました。その中で他の金融機関とは異なり、第一次産業の発展のための銀行である金庫に魅力を感じ入庫しました。

## — 業務内容を教えてください。 —

営業第2班に所属し、系統（第一次産業向）貸出をおこなっています。主に県南地域の農業法人を担当しており、金融面でのサポートやビジネスマッチング等の非金融面でのサポートを実施しています。

## — 働いた感想は？ —

第一次産業向貸出では、数字で図れることができない指標が多いことに驚きました。生産技術の良し悪しについて、お客様に教えていただきながら日々知見を高めるようにしています。

## — 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

何か困ったときにお客様に気軽にご相談していただける担当になることを心掛けています。金融面のご相談から、生産現場までのご相談まで様々なことに対応できるよう、定期的な訪問を通じてお客様の理解に努めています。

## — 特技・趣味は？ —

スポーツを見ることです。学生時代に経験したこともあり、東京オリンピックではバレーボールに注目しています。競技場で生観戦できないのが心苦しい限りですが、同世代の選手たちが活躍している姿を見るのが楽しみです。

## — あなたが自慢できることは？ —

フットワークの軽さです。仕事においては、何かあればお客様のところへすぐ訪問できるのが強みです。プライベートにおいては、知人に誘われるとすぐに飲みに行ってしまう。

## — 将来の夢は？ —

私自身、青森県で働くことになるとは夢にも思っていませんでした。当初は冬が厳しい青森の環境に戸惑うことも多かったのですが、3年目になる今年はすっかり今の環境になじむことができました。青森で働くことになったのも何かのご縁だと思うので、県内第一次産業が少しでも良い方向に進むような取り組みを実現することが目標です。

## 味よし三好 米みそ

五所川原市藻川の岡元久さんが会長を務める三好むらづくり協議会は、地元の農産物を主原料とする「味よし三好 米みそ」を製造し、JAごしょつがる農産物直売所「まるっと新鮮館」などで販売している。

みその原材料は大豆、米、塩で添加物は使用していない。こうじは米から自作していて、11月から3月の間でみその仕込みを行い、9月ごろから順次商品として販売している。あえて発酵止めを行わないため、酵母や乳酸菌が生きたままのみそを手にすることができると評判だ。

同協議会は1987年からみそなどの加工品づくりを始めた。昭和、平成、令和と地域の作り手は変わりつつも、30年以上続く手作りの味は地域の若い世代へ受け継がれ、昔ながらの地域の味を伝え続けている。

会員の一人である小野慶子さんは「みそ汁はもちろん、酢みそ和えや焼きおにぎりもおすすめ。（酵母が生きているため）気温が高いとみそが発酵するので、保存する時は冷蔵庫か冷凍庫で保存してください」と話す。

米みそは500gと1kgがあり、税込みでそれぞれ349円、550円で販売している。人気商品のため時期によっては品薄となる場合があるとのこと。



同協議会で仲間たちとみそを製造している小野さん

問い合わせ先：「まるっと新鮮館」  
電話：0173-29-3451、または同協議会農産物加工センター 0173-36-3474  
記事提供：JAごしょつがる



新規就農者  
青森市浪岡  
長尾 泰孝さん



自身の園地で初となるリンゴの収穫をする長尾さん

青森市浪岡地区でリンゴ43アールを栽培する、就農2年目の長尾泰孝さん(28)。大学卒業後、一時は関東のIT企業に勤めていたが「製品の一部だけを作るのではなく、自分が最初から最後の工程まで全て責任をもてる仕事がしたい」と一念発起。

スマート化がどんどん進む農業界の中で、効率化にまだまだ課題を抱える果樹にチャレンジしてみたいと思い、新規就農者として農家への第一歩を踏み出した。

県の農林業支援センターや東青地域県民局で情報収集していく中で、現在指導してくれている先輩農家を紹介された。

「リンゴ栽培に関する作業や技術はもちろん、農家としての生き方など、座学だけでは吸収できないことも教えてくれるのでありがたい」と、全幅の信頼をおく。

就農した2019年7月は、リンゴ栽培で最も重要な剪定作業が既に終わっていたため20年3月に初めて剪定を経験した。その後も摘花や摘果など、1年かけてリンゴ栽培の全作業工程を経験。8月末には自分が手掛けたリンゴを初めて収穫することができた。

「さび病や日焼けもあったが、やっぱり一生懸命育ててきたリンゴの収穫は楽しい」と笑顔で収穫の喜びを話す。

国の「農業次世代人材投資資金(準備型)」を利用している長尾さん。21年7月に研修を終え独立する予定だ。「これから農業が発展していくために新しい技術を積極的に取り入れ、リンゴ農家の収入向上を前提に考えて取り組んできたい」と夢を膨らませる。(日本農業新聞・青森県版10月8日掲載)

後編  
編集  
記集

いつかは発生するだろうと思っていた新型コロナによる集団クラスターがとうとう本県でも発生してしまった。

今まで、ほとんど陽性者が出ていなかった弘前市で100人以上の大規模なもの。

発生と同時期に弘前地区への移動禁止令が出され、業務への支障が出ている。今回は、突発的な事故と受け止め、今後、感染経路が特定できない「市中感染」にならないよう感染防止対策を継続するのみである。

「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の興行収入が公開10日間でこれまでの歴代1位の「千と千尋の神隠し」を超え107億円に達したと報道された。つい最近『鬼滅の刃』のTVバージョンを見る機

会があり、これは「おもしろい」と10話連続して鑑賞した。

この作品、一言で言えば「鬼退治」ストーリーなのだが、時代の設定が大正時代の日本であり親和感が持て、どこか古めかしい日本的なものに共感できる。どこか桃太郎に似たストーリー性を感じる。



家族の仇をとる。妹を守る。鬼を倒す。刃で自己の道を切り開く。このコロナ渦の混沌とした時代に奇妙な嬉しさを感じる作品だ。主人公の刃で新型コロナウィルス(鬼)を倒してほしいものだ。(公)

ホームページアドレス

- JA青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>  
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

# 「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、  
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは JA へ  
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS  
**日本農業新聞**  
<https://www.agrnews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ～JAグループ情報共有運動



たいせつな人へのこした  
**知恵**と**思い**と**豊**かな暮らし

12月号 第2 別冊付録

12月号 第1 別冊付録

12月号 第2 別冊付録

1月号 第1 別冊付録

1月号 第2 別冊付録

ハッピーマイル 家の光

きずなの日 健康と行動のサポート

JAグループ家の光協会

JAグループのファミリー・マガジン  
**『家の光』12月号・1月号**  
**購読申し込み受付中**

家の光

定価(税込)  
●家計簿・別冊付録付き12月号 1,027円  
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円 ●普通月号 629円

JAグループ家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ





つがるロマン  
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂  
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら  
MASSHIGURA

## 青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部  
aomori-komehonbu.gr.jp



© やなせたかし

何度でも  
旅に出よう!

旅行代金  
最大35%割引!

GO To トラベル  
キャンペーンで

旅をお得に楽しもう!

国内旅行を楽しんで、日本を元気に!

**対象期間**  
2020年7月22日(水)～  
2021年1月31日(日)(予定)まで  
※支援金予算が上限に達し次期販売終了となります。予めご了承ください。

**お申し込み**  
農協観光各支店または  
WEBサイトにて  
<https://ntour.jp/Yado/>  
※WEBサイトからの申し込みは8月上旬からご利用いただけます。

**おもな宿泊対象商品の一例**  
農協観光こだわりの宿・旅立ち

パンフレット例

**GO To トラベル キャンペーンについて**

新型コロナウイルスの影響により、甚大な被害を受けている観光業等を対象にした官民一体型の消費喚起キャンペーン「Go To トラベルキャンペーン」が実施されます。このキャンペーンは、旅行需要喚起と地域を再活性化するための取り組みです。

キャンペーン期間内に旅行商品を購入した方は、**なんと旅行代金が最大35%割引!**

1人1泊あたり上限14,000円・日帰りは上限7,000円  
※地域共通クーポンの取扱いについては9月上旬以降、開始の予定です。それまでは実質最大35%の割引となり、9月上旬以降は支援額と地域共通クーポン合わせて最大半額相当の補助となります。

お得に旅を楽しんで、日本を元気にしましょう!

専用の募集チラシをご用意しております。詳しくは農協観光青森支店まで

旅行企画・実施  
お問い合わせ・  
お申込み



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号  
株式会社 **農協観光青森支店**  
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15  
総合旅行業務取扱管理者: 伊藤 亨・田川ますみ  
**TEL 017-729-8800**  
**FAX 017-729-8803**

お問い合わせ  
お申込み

青森県知事登録旅行業者代理業第26号  
JA 十和田おいらせ旅行センター  
☎0176-23-0374  
総合旅行業務取扱管理者 / 桜田 康子  
青森県知事登録旅行業者代理業第26号  
JA ゆうき青森旅行センター  
☎0175-72-1433  
総合旅行業務取扱管理者 / 八重樫泰浩

青森県知事登録旅行業者代理業第15号  
JA 津軽みらい旅行センター  
※現在「休業中」です

# 作品介绍

●令和元年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第三部）

「毎朝のごはんに感謝」

南部町立福地中学校

1年 松坂泰誠



■優秀賞（図画部門第三部）

「今日もごはんがうまい！」

三沢市立第一中学校

2年 前川原 姫典